

次の100年も・・・ここに商工会!!

●第143回(平成26年度第4回)●

中小企業景況調査報告書

栃木県商工会地区

平成27年 1月～ 3月・報告

平成27年 4月～ 6月・予想



次の100年も
・・・ここに商工会

栃木県商工会連合会

目次

	頁
1. 栃木県産業全体の景況概要	3
栃木県と全国の業況D I 推移を比較・・・図1	
県内産業別の業況D I 推移を比較・・・図2	
2. 製造業の景況	4
主要景況項目の推移	・・・図3
売上額(加工高)の状況	・・・図4
採算(経常利益)の状況	・・・図5
設備投資の状況	・・・図6
経営上の問題点の状況	・・・図7
3. 建設業の景況	7
主要景況項目の推移	・・・図8
売上額(完成工事高)の状況	・・・図9
採算(経常利益)の状況	・・・図10
設備投資の状況	・・・図11
経営上の問題点の状況	・・・図12
4. 小売業の景況	10
主要景況項目の推移	・・・図13
売上額の状況	・・・図14
採算(経常利益)の状況	・・・図15
設備投資の状況	・・・図16
経営上の問題点の状況	・・・図17
5. サービス業の景況	13
主要景況項目の推移	・・・図18
売上額(収入高)の状況	・・・図19
採算(経常利益)の状況	・・・図20
設備投資の状況	・・・図21
経営上の問題点の状況	・・・図22
6. 調査対象事業所の内容	16

○D I 指数とは

本文中やグラフ中に登場するD I 値とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index = 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

D I 値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、D I 値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がり示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%となったとすると、D I 値は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを示している。

〔 調 査 要 領 〕

○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況等や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的実施に資するものとする。

本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の4業種を、主要景況項目（売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り）から分析し、景況情報をまとめたものである。

○調査対象地区

栃木県下の10商工会地区

矢板市・壬生町・野木町・芳賀町・西方

下野市・氏家・西那須野・茂木町・足尾町

○調査対象

対象企業数：上記商工会地区の150企業（1商工会15企業）

回答企業数：150企業（回答率100%）

○調査時点

平成27年3月1日

○調査対象期間

平成27年1月～3月期の実績及び、平成27年4月～6月期の見通しについて調査。

○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査。

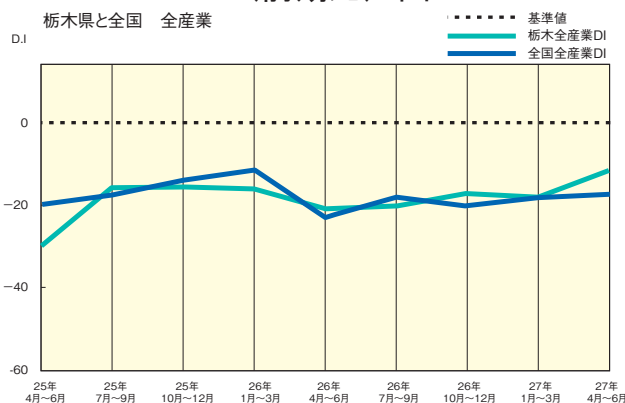
○回答企業数内訳

産 業	回答企業数	構成比(%)
製 造 業	30	20.0
建 設 業	21	14.0
小 売 業	40	26.7
サ ー ビ ス 業	59	39.3
合 計	150	100.0

1. 栃木県産業全体の景況概要

〈栃木県と全国の業況D I 推移を比較〉

「全国では回復傾向も県内はやや悪化、来期は県内も回復を予想」
(前期比) 図 1



全国でみると、今期の業況はD I 値は+1.6ポイント（-19.4ポイント→-17.8ポイント）改善し、マイナス幅が縮小した。来期の見通しは、+1.9ポイントと今期同等の改善を予想している。

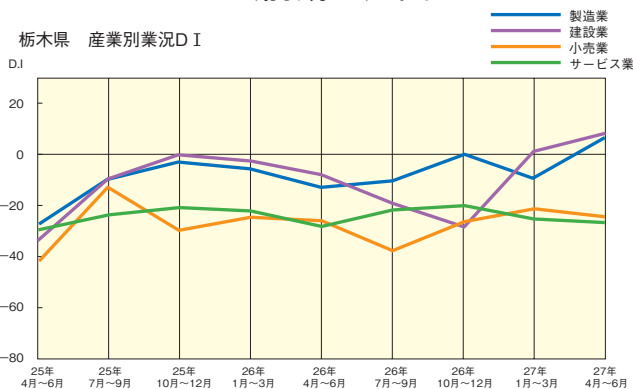
栃木県内の業況D I は、-0.7ポイント（-17.4ポイント→-18.1ポイント）とやや悪化したが、来期予想は+6.9ポイント（-18.1ポイント→-11.2ポイント）と大幅な改善を予想。

今期は、全国と県内では改善と悪化が反対する傾向となっているが、来期は全国・県内とも回復を示した。H26. 4～6期以降、僅かながら回復基調だが停滞感も強く、消費税引き上げによる需要の低下が続いていると思われる。

※全国業況D I は、独立行政法人中小企業基盤整備機構が公表するニュースリリースから、栃木県業況D I は、商工会議所・中小企業団体中央会が実施する中小企業景況調査を含めた値を利用してグラフ化した。それぞれの調査時点は同日である。

〈県内産業別の業況D I 推移を比較〉

「建設業が大幅に改善、業種によりバラツキが大きい」
(前期比) 図 2



「建設業」は+31.0ポイント（-29.5ポイント→+1.5ポイント）と5期ぶりにプラスに転じ、大幅な回復となった。来期も引き続き+4.5ポイントの予想となっている。

改善傾向だった「製造業」が悪化したが、来期は回復見込みとなっている。

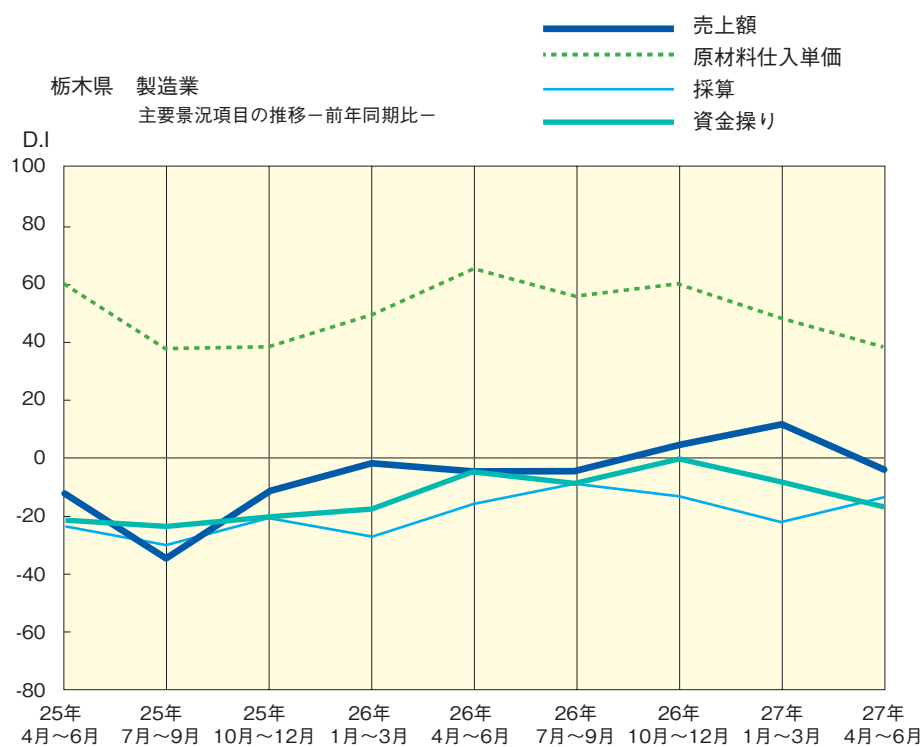
「小売業」「サービス業」は来期、悪化の予想となっている。

2. 製造業の景況

－主要景況項目の推移－

「売上は2期連続プラス水準も、来期は悪化を予想」

製造業 主要項目の推移（前年同期比） 図3



前回調査の予想どおり「売上額」は引き続きプラス水準となったが「資金繰り」「採算」は悪化した。

来期の「採算」は改善の予想だが「資金繰り」は引き続き悪化を予想している。「原材料仕入単価」は依然として高水準ではあるが下落傾向にある。

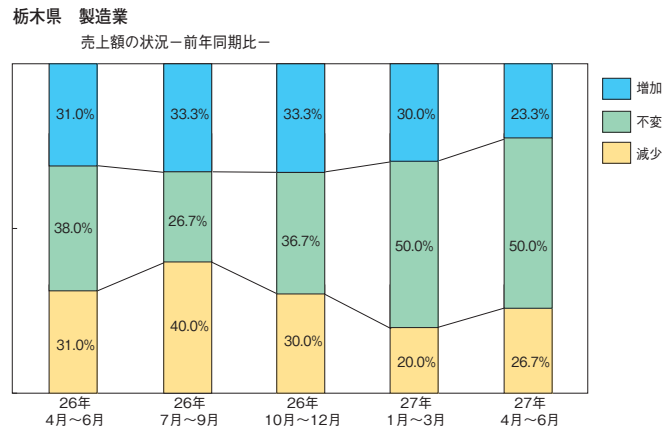
－売上額(加工高)－

売上額(加工高)の状況(前年同期比) 図4

今期D I 値の内訳は、増加企業が30.0%、減少企業が20.0%であった。

D I 値は+10.0ポイントで、前期(+3.3ポイント)に引き続きの改善となった。

来期の見通しは、売上増加と予想する企業が23.3%、減少を予想する企業が26.7%で、D I 値は-3.4ポイントとなっている。



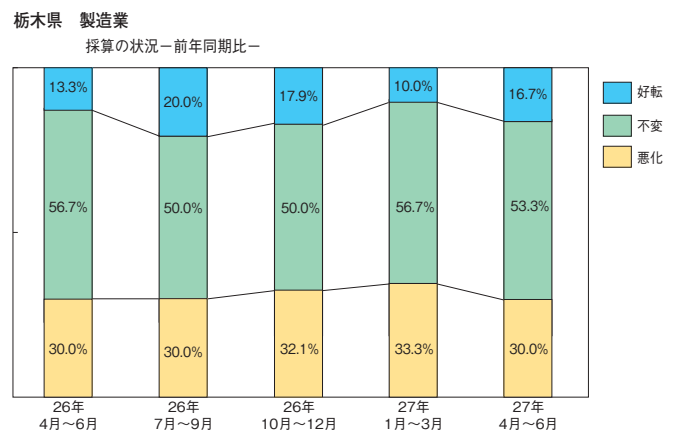
－採算(経常利益)－

採算(経常利益)の状況(前年同期比) 図5

今期D I 値の内訳を見ると、好転企業が前期より減少し、不変企業が増加した。

D I 値は-23.3ポイントであり、前期(-14.2ポイント)より大幅に悪化した。

来期の見通しは、好転を予想する企業が増加、悪化を予想する企業が減少するため、D I 値は-13.3ポイントと今期(-23.3ポイント)より+10.0ポイント改善する予想である。

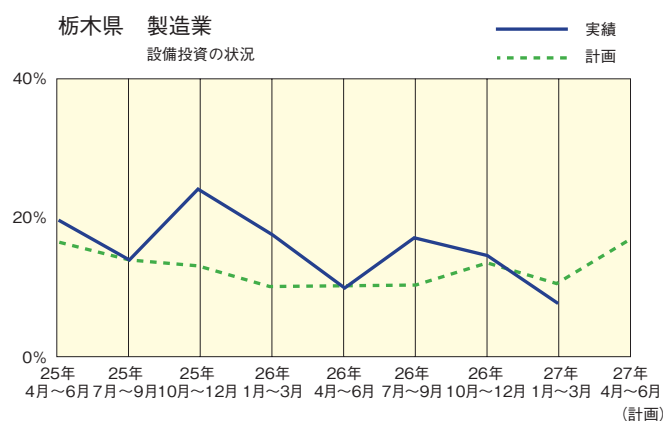


－設備投資の状況－

設備投資の状況 図 6

今期の設備投資の状況は、計画していた企業割合が10.3%に対し、実績は6.7%と計画を下回る結果となった。

来期に設備投資を計画している企業は16.7%で6.4ポイント増加の計画となった。

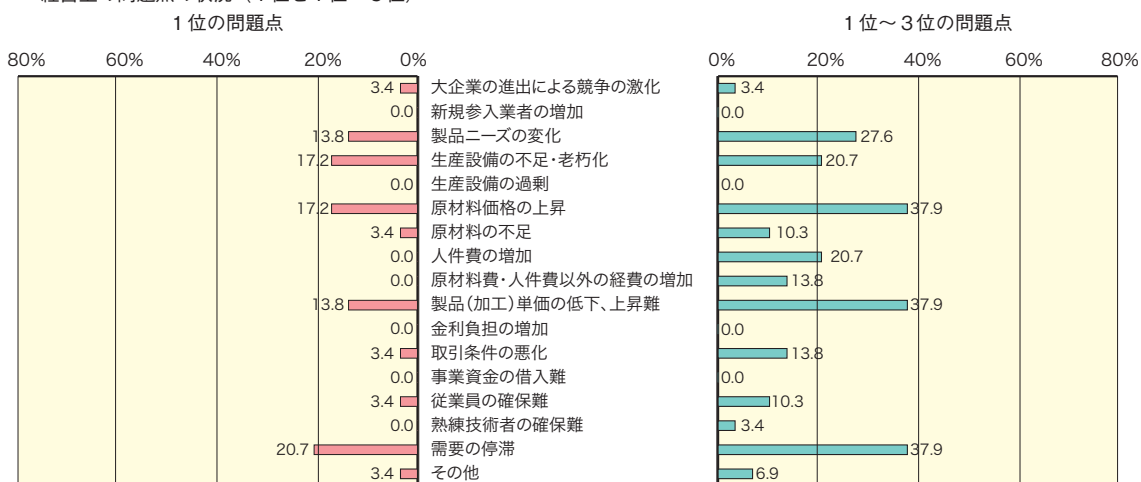


－経営上の問題点－

経営上の問題点の状況 図 7

栃木県 製造業

経営上の問題点の状況 (1位と1位～3位)



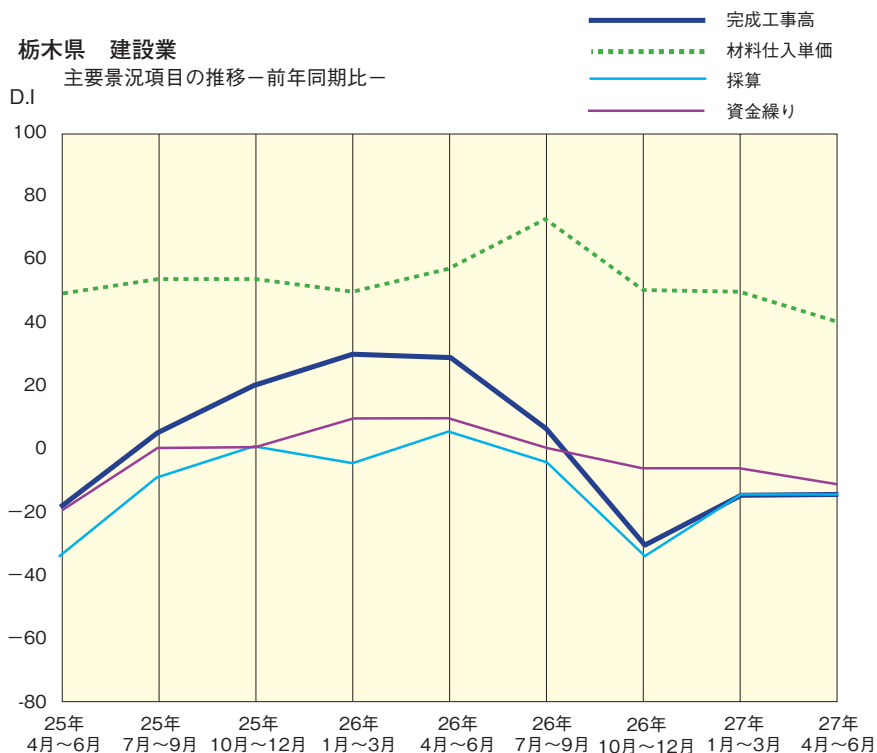
1位の問題点を見ると、「需要の停滞」が最も多く、(20.7%)となっている。次いで「原材料価格の上昇」「生産設備の不足・老朽化」が同率(17.2%)で挙げられている。1位～3位の問題点では、「生産設備の不足・老朽化」に代わって「製品(加工)単価の低下、上昇難」が加わり同率(37.9%)で1位として挙げられた。

3. 建設業の景況

－主要景況項目の推移－

「完成工事高、採算は回復したが、来期は横ばいを予想」

建設業 主要項目の推移（前年同期比） 図8



前期まで悪化傾向が続いていたが、「売上額（完成工事高）」が前期比+15.8ポイント（-30.0ポイント→-14.2ポイント）と回復した。また、「採算（経常利益）」も前期比+19.0ポイント（-33.3ポイント→-14.3ポイント）と大幅に改善したが、依然として厳しい状況となっている。

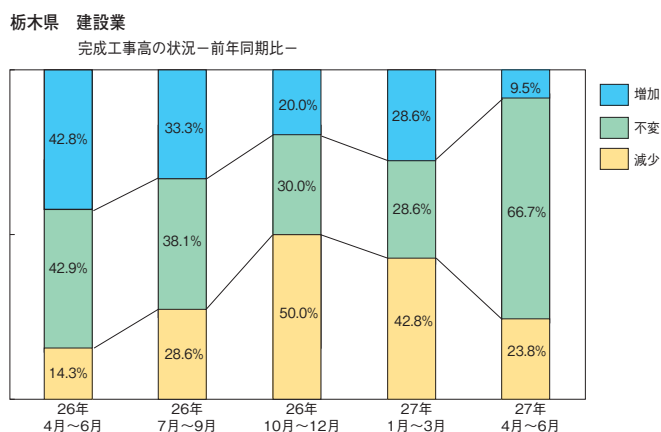
来期の見通しでも各指標は横ばいの傾向を示している中、「材料仕入単価」は、低下傾向が続くと予想している。

—売上額(完成工事高)—

売上額(完成工事高)の状況(前年同期比) 図9

今期D I 値の内訳を見ると、増加企業が28.6%、減少企業が42.8%、不変企業が28.6%であった。D I 値は-14.2ポイントと回復した。

来期の見通しでは、増加を予想する企業が大幅に減少(28.6%→9.5%)するが、不変とする企業が大幅に増加(28.6%→66.7%)するため、D I 値は今期を維持(-14.2ポイント→-14.3ポイント)する予想である。



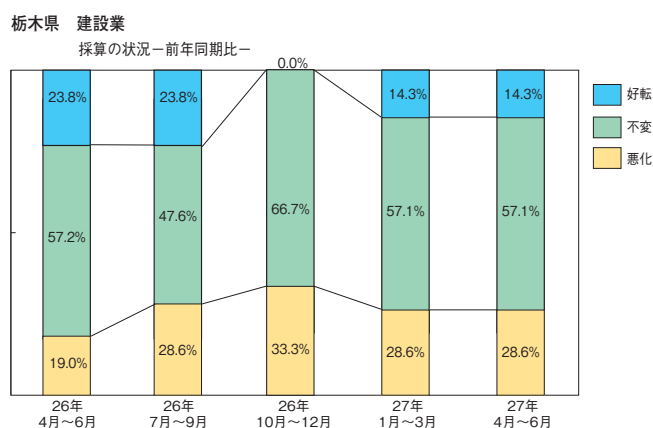
—採算(経常利益)—

採算(経常利益)の状況(前年同期比) 図10

今期D I 値の内訳を見ると、昨期での見通しでは好転企業は0%の予想であったが、14.3%と大幅に増加した。

D I 値は-14.3ポイントとなり、+19.0ポイント(-33.3ポイント→-14.3ポイント)回復した。

来期の見通しは、横ばいで推移すると予想しており、引き続き厳しい状況が続く。

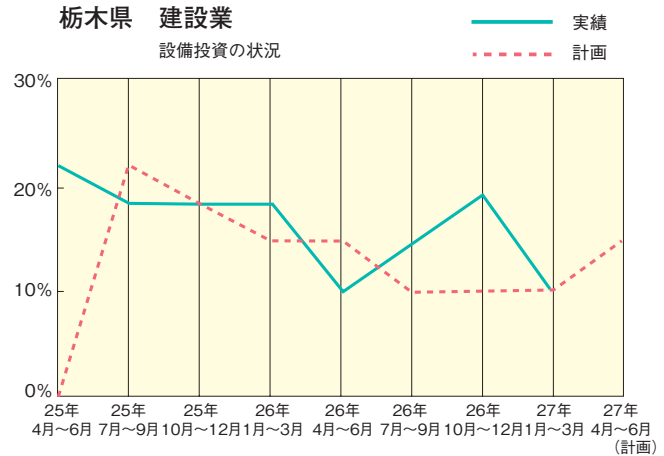


—設備投資の状況—

設備投資の状況 図11

今期の設備投資の状況は、計画していた企業が9.5%に対して、実績は9.5%と計画どおりの結果となった。

来期に設備投資を計画している企業は4期ぶりに伸びて14.3%である。

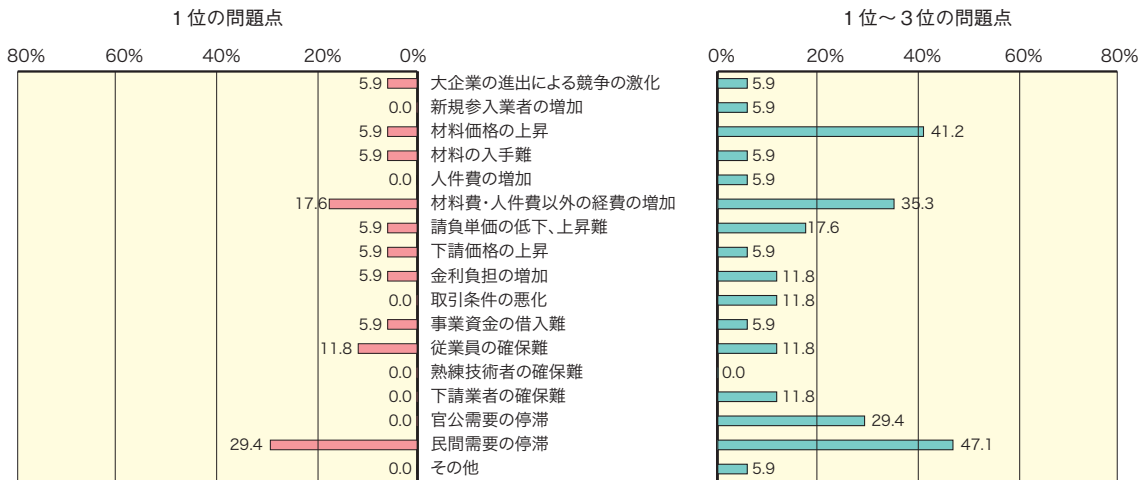


—経営上の問題点—

経営上の問題点の状況 図12

栃木県 建設業

経営上の問題点の状況 (1位と1位～3位)



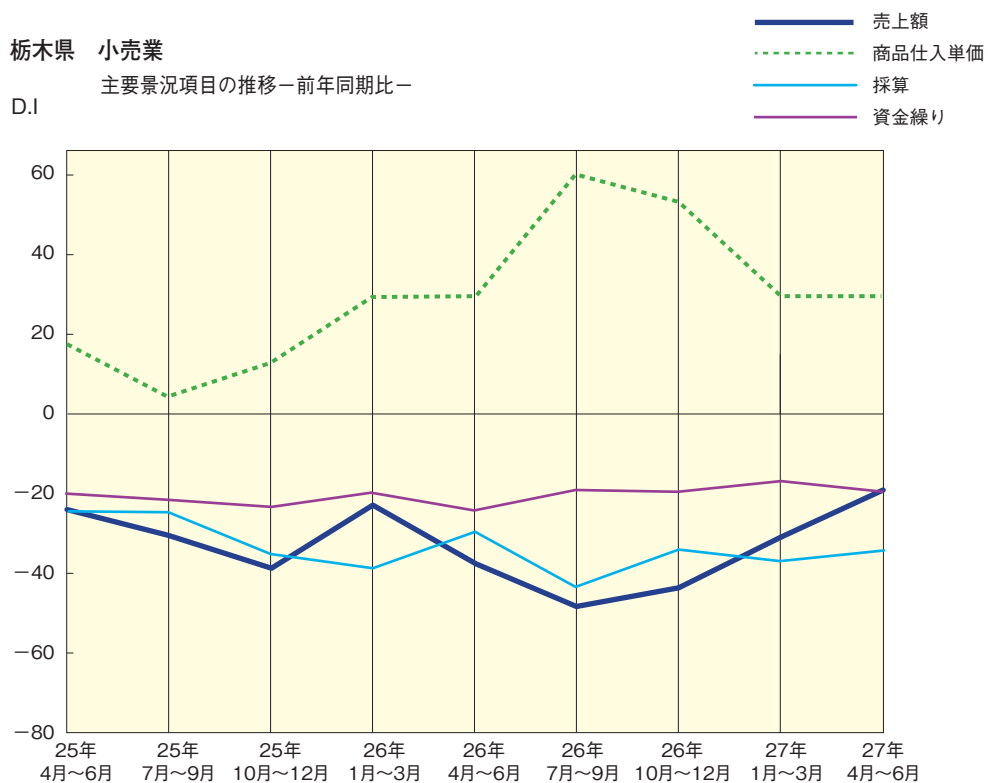
1位の問題点では、「民間需要の停滞」(29.4%)に次いで、「材料費・人件費以外の経費の増加」(17.6%)が挙げられており、1位～3位の問題点では、それらに「材料価格の上昇」が高い値で挙げられている。

4. 小売業の景況

—主要景況項目の推移—

「売上額、商品仕入単価が改善、来期も売上は改善傾向」

小売業 主要項目の推移（前年同期比） 図13



D I 値は、「売上額」が前期と比べ12.5ポイント改善（-45ポイント→-32.5ポイント）、「商品仕入単価」も22.5ポイント（52.5ポイント→-30.0ポイント）改善するも、「採算」「資金繰り」も含め低い水準が長期に渡り続いている。

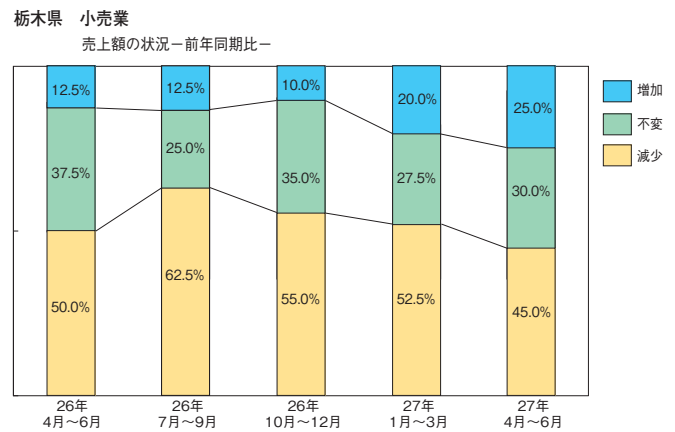
来期の見通しをみると、「売上額」が3期連続して上昇しているが、「採算」「資金繰り」に改善が見られず、マイナスの水準が今後も続く予想となった。

—売上額—

売上額の状況（前年同期比） 図14

今期D I 値の内訳を見ると、売上額が減少したとする企業が52.5%、増加企業が20.0%でD I 値は-32.5ポイントであった。

来期の見通しは、売上増加を予想する企業が25.0%となり、売上額が減少するとした企業が45.0%となるため、D I 値は-20.0ポイントに改善する予想である。

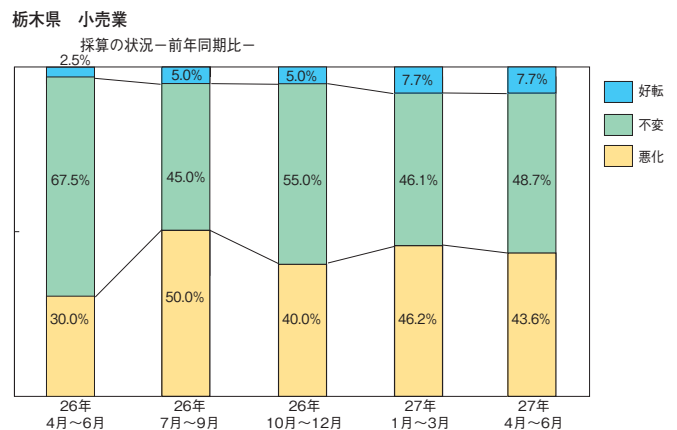


—採算(経常利益)—

採算(経常利益)の状況（前年同期比） 図15

今期D I 値の内訳を見ると、悪化企業が46.2%、好転企業が7.7%で、D I 値は-38.5ポイントと、前期（-35.0ポイント）に比べ悪化した。

来期の見通しは、好転企業には変化はないが、悪化を予想する企業が2.6%減少するため、D I 値は-35.9ポイントと小幅ながら改善を予想している。

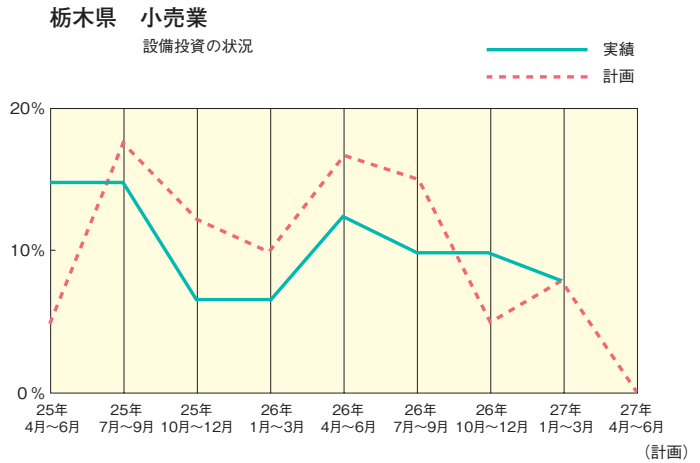


—設備投資の状況—

設備投資の状況 図16

今期の設備投資の状況は、計画していた企業割合7.5%に対し、実施割合は7.5%と、計画をどおりとなった。

来期に設備投資を計画している企業は無かった。

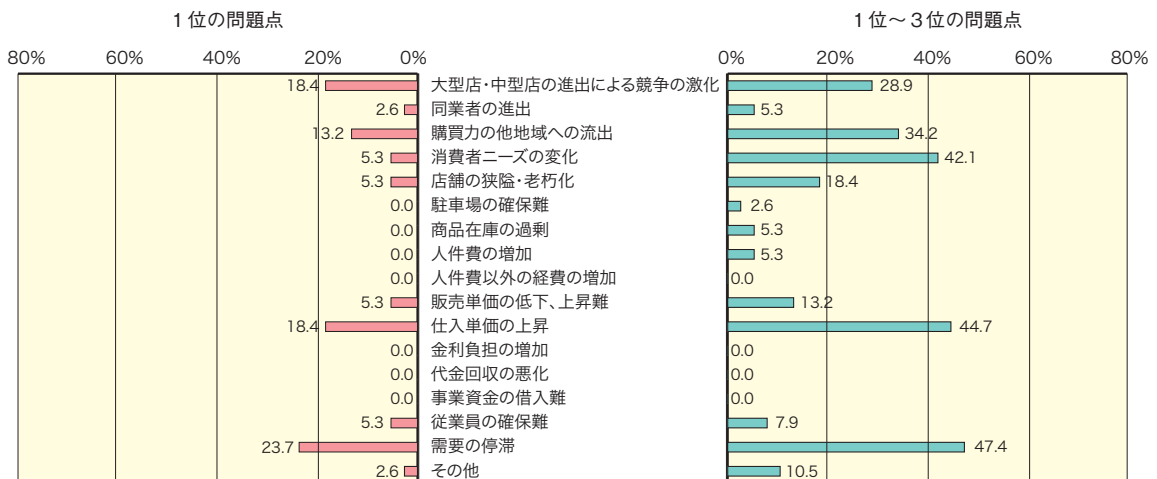


—経営上の問題点—

経営上の問題点の状況 図17

栃木県 小売業

経営上の問題点の状況 (1位と1位~3位)



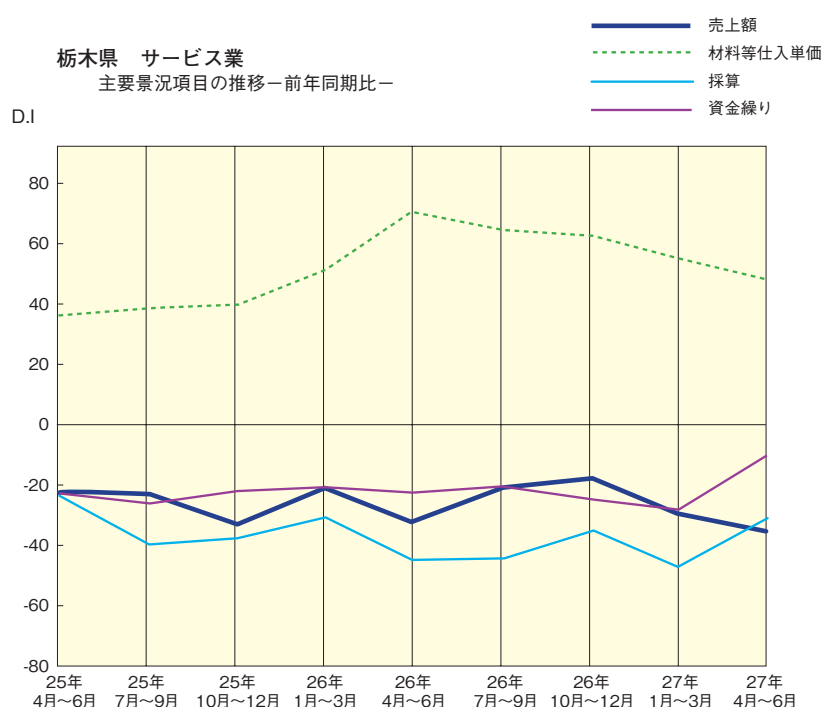
1位の問題点では、「需要の停滞」(23.7%)、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(18.4%)、「仕入単価の上昇」(18.4%)という順で挙げられた。1位~3位の問題点においても、上位2項目は変わらず、続いて「消費者ニーズの変化」が挙げられている。

5. サービス業の景況

ー主要景況項目の推移ー

「今期は売上、採算が悪化、来期は採算、資金繰りで改善を予想」

サービス業 主要項目の推移（前年同期比）図18



「売上額」のD I 値は前期と比べ - 12.3ポイント（-17.0ポイント→-29.3ポイント）と悪化、「採算」も - 8.6ポイント（-34.5ポイント→-43.1ポイント）悪化した。

「材料等仕入単価」は - 6.8ポイント（64.4ポイント→57.6ポイント）となり、減少傾向が続く。

来期は、「売上額」のD I 値が-6.3ポイントと前期に続きさらに悪化（-29.3ポイント→-35.6ポイント）すると予想しているが、「採算」（+12.0ポイント：-43.1ポイント→-31.1ポイント）、「資金繰り」（+17.6ポイント：-28.1ポイント→-10.5ポイント）についてはそれぞれ改善を予想している。

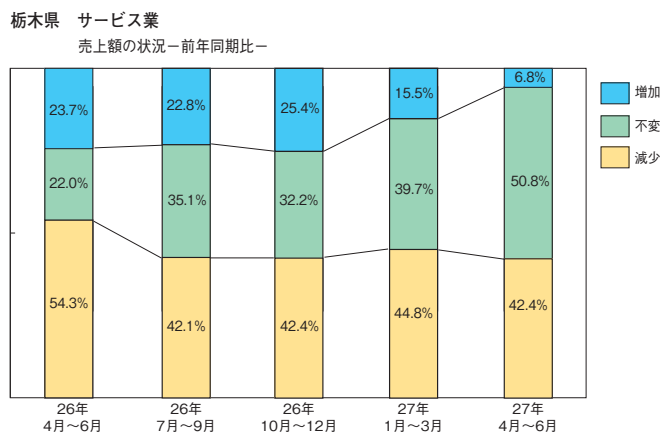
「材料等仕入単価」は、低下傾向を維持すると予想している。

－売上額(収入高)－

売上額(収入高)の状況(前年同期比) 図19

今期売上額のD I 値の内訳を見ると、減少企業が44.8%、増加企業が15.5%で、D I 値は-29.3ポイントであった。

来期の見通しは、増加を予想する企業が6.8%と減少し、不変を予想する企業が増加するため、D I 値は-35.6ポイントと悪化予想となった。

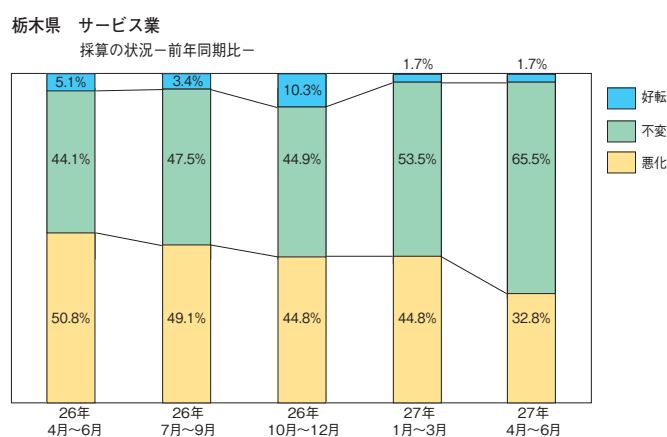


－採算(経常利益)－

採算(経常利益)の状況(前年同期比) 図20

今期D I 値の内訳を見ると、好転企業が1.7%と大幅に減少し、悪化企業が変わらず44.8%となり、D I 値は-43.1ポイントと悪化を示した。

来期の見通しは、好転を予想する企業が1.7%と変わらない予想だが、悪化を予想する企業が44.8%から32.8%に減少するため、D I 値は-31.1ポイントと改善を予想している。

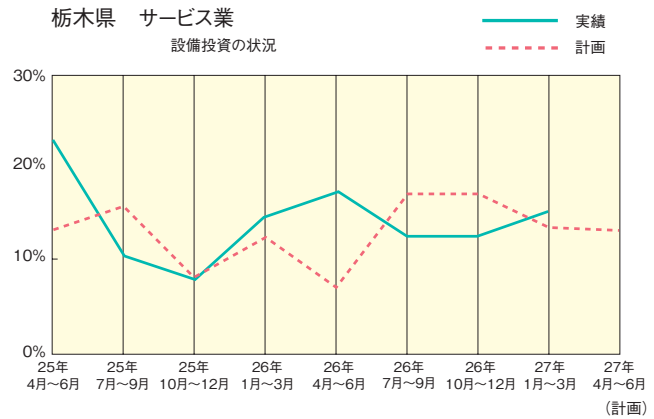


－設備投資の状況－

設備投資の状況 図21

今期の設備投資の状況は、計画していた企業割合14.0%に対し、実施割合は15.3%となり、計画を上回る結果となった。

来期に設備投資を計画している企業は、今期とほぼ横ばいの13.6%となっている。

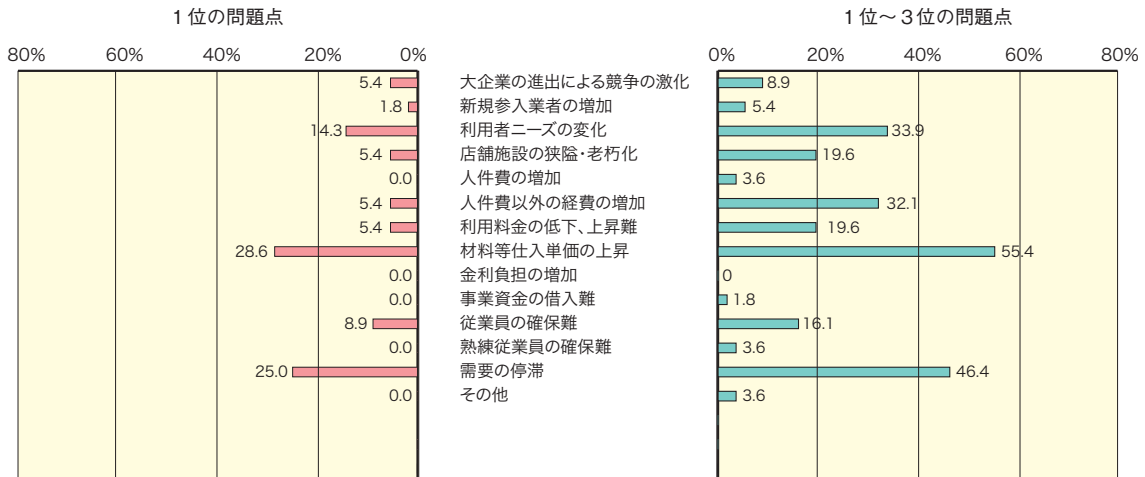


－経営上の問題点－

経営上の問題点の状況 図22

栃木県 サービス業

経営上の問題点の状況 (1位と1位～3位)



1位の問題点では、「材料等仕入単価の上昇」が28.6%でトップに挙げられ、次いで「需要の停滞」が25.0%、「利用者ニーズの変化」が14.3%が続いている。1位～3位の問題点でも「材料等仕入単価の上昇」が55.4%、「需要の停滞」が46.4%、「利用者ニーズの変化」が33.9%と同じ順位となっている。

6. 調査対象事業所の内容

〈製造業〉

業種別内訳 30事業所

業種	事業所数	割合%
食料品製造業	9	30.0
飲料・資料・たばこ製造業	1	3.3
繊維工業	0	0.0
衣服・その他繊維製品製造業	0	0.0
木材・木製品製造業	0	0.0
家具・装備品製造業	1	3.3
パルプ・紙・紙加工品製造業	0	0.0
印刷・同関連業	2	6.7
化学工業	0	0.0
プラスチック製品製造業	1	3.3
窯業・土石製品製造業	1	3.3
金属製品製造業	3	10.0
一般機械器具製造業	1	3.3
電機機械器具製造業	1	3.3
運送用機械器具製造業	3	10.0
精密機械器具製造業	1	3.3
その他の製造業	6	20.0

従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	13	43.3
3人以上～5人以下	7	23.3
6人以上～10人以下	4	13.3
11人以上～20人以下	3	10.0
21人以上～50人以下	2	6.7
51人以上～100人以下	0	0.0
101人以上	1	3.3

〈建設業〉

業種別内訳 21事業所

業種	事業所数	割合%
総合工事業	13	61.9
職別工事業	6	28.6
設備工事業	2	9.5

従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	10	47.6
3人以上～5人以下	5	23.8
6人以上～10人以下	4	19.0
11人以上～20人以下	2	9.5
21人以上～50人以下	0	0.0
51人以上～100人以下	0	0.0
100人以上	0	0.0

〈小売業〉

業種別内訳 40事業所

業種	事業所数	割合%
各種商品小売業	3	7.5
織物・衣服・身の回り品小売業	4	10.0
飲食料品小売業	15	37.5
自動車・自転車小売業	3	7.5
家具・建具・じゅう器小売業	2	5.0
その他小売業	13	32.5

従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	34	85.0
3人以上～5人以下	6	15.0
6人以上～10人以下	0	0.0
11人以上～21人以下	0	0.0
21人以上	0	0.0

〈サービス業〉

業種別内訳 59事業所

業種	事業所数	割合%
一般飲食業（一般・遊興）	25	42.4
宿泊業	0	0.0
運輸業	4	6.8
自動車整備業	3	5.1
洗濯・理美容業	18	30.5
その他サービス業	9	15.3

従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	47	79.7
3人以上～5人以下	10	16.9
6人以上～10人以下	1	1.7
11人以上～21人以下	1	1.7
21人以上	0	0

第 1 4 3 回中小企業景況調査報告書

平成 2 7 年 1 月～ 3 月期報告

平成 2 7 年 4 月～ 6 月期予想

編集：栃木県商工会連合会 顔晴る企業応援課

発行所：栃木県商工会連合会 栃木県宇都宮市中央 3 丁目 1 番 4 号

TEL 028-637-3731 FAX 028-637-2875

印刷所：(株)松井ピ・テ・オ・印刷
